

(氏名) 矢野 修一	(学部) 経済学部
1 重要事項	
◇学会報告；	
<p>日本国際経済学会第 82 回全国大会「共通論題」報告において、「グローバル・サウスという『問い』に世界経済論はどう向き合うかーグローバル・ヒストリーとの協奏」と題する発表を行った（2023 年 10 月 14 日、明治大学駿河台キャンパス・リバティータワー1 階）。</p>	
◇研究ノート；	
<p>『地域政策研究』第 26 巻第 4 号（高橋伸次教授退職記念号）に『「グローバル・サウス」への地政学的関心をめぐって』を寄稿した（21-39 頁）。</p>	
◇書評；	
<p>*小池洋一・子安昭子・田村梨花編『ブラジルの社会思想ー人間性と共生の知を求めて』現代企画室、2022 年（『アジア・アフリカ研究』第 63 巻第 4 号、2023 年、83-88 頁）。</p>	
<p>*本山美彦『「協同労働」が拓く社会ーサステナブルな平和を目指して』文眞堂、2022 年（経済理論学会誌『季刊 経済理論』第 60 巻第 4 号、2024 年 1 月、79-81 頁）。</p>	
<p>*河明生『日本跆拳道教本』株式会社 ITA、2023 年（『ファイト&ライフ』第 101 号、2024 年）。</p>	
◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導；	
<p>日本企業のケーススタディを柱とし、2010 年度から 14 年間続く「高大コラボゼミ」を企画し、各種指導を行った。経営支援 NPO クラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による大陽日酸、DM 三井製糖、ポニーキャニオン、リコー、ランスタッド、ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの各社の研究をサポートし、本社訪問と成果発表会（高経大 731 教室、9 月 5 日）につなげた。</p>	
◇『高大コラボゼミ 2023 年度成果報告書』の編集補助；	
<p>2023 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。報告書は、高崎市議会議員を含め、関係各方面に配布された。</p>	
◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第 31 号（2024 年 3 月刊）の監修および編集；	
<p>1994 年 3 月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2023 年度も卒業論文の執筆を指導し、250 頁を超える卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。</p>	
2 その他の事項	
◇高崎経済大学地域科学研究所「公開講座」講師；	
<p>『「グローバルサウス」とどう向き合うか』（10 月 31 日、111 教室）。</p>	
◇アジア・コンセンサス研究会での報告；	
<p>20 年以上にわたり継続している他大学研究者との「アジア・コンセンサス研究会」において、上掲の研究ノート、学会報告用ペーパーの内容を報告し、討論を行った（12 月 16 日、明治大学駿河台キャンパス 12 号館）。</p>	
◇高崎経済大学経済学会の運営；	
<p>学会長として、『INTRO2024』の編集、懸賞論文大会などの各業務を所掌するとともに、講師を招き、下記の学術講演会を主宰した。</p>	

*法政大学名誉教授・下斗米伸夫氏「ウクライナ戦争をどうみるか」(7月3日、214教室)

*ピースボート共同代表/ICAN 会長・川崎哲氏「僕の仕事は、世界を平和にすること—核兵器廃絶に向けて」(11月14日、142教室)

*専修大学教授/北海道大学名誉教授・西部忠氏「地域通貨と域内経済循環」(1月26日、図書館ホール)

◇地域科学研究所研究プロジェクト「日本における『持続可能な地域』実現の展望と課題—ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に」の運営;

上記研究プロジェクト(通称 SuCoP)を主宰した。下記のとおり、公開講演会等を実施し、研究を進めるとともに、本学教職員・学生・卒業生、高経附教員・生徒、自治体職員、一般市民、スポーツ団体など、多様な主体の交流を図った。

*元財務副大臣/前久留米市長・大久保勉氏「福岡久留米でのバイオ・エコシステム形成への取り組み」(6月30日、図書館ホール)

*高崎経済大学名誉教授・石川弘道氏「地方公立大学の持続的発展に向けて」(7月19日、図書館ホール)

*群馬クレインサンダーズ社長・阿久澤毅氏/ TM Future 代表取締役・竹内美奈子氏 公開シンポジウム「プロバスケットボールチームとホームタウンの互恵的発展に向けて—群馬クレインサンダーズを事例に」(7月22日、72教室)

*宇都宮大学名誉教授・守友裕一氏「災間の時代の地域とこれからの課題—原子力災害被災地と内発的発展論と関わらせて」(11月21日、図書館ホール)

*高崎経済大学教授・高橋伸次氏「スポーツで高崎を変える—ソフトボールシティへの挑戦」(3月16日、214教室)

◇高校生向け講演・講義等;

高崎市立高崎経済大学附属高校 2 学年生徒全員に向けて、「『はたらく』ということ、『学ぶ』ということ—社会に出るために身につけたい能力と大学で学ぶ心構え」と題する講演を行った(1月16日、高経附)

また新年度 3 年文系オナークラス生向けに、高大コラボゼミのオリエンテーションを行った(3月18日、高経附)。

◇学部ゼミ生向け就活サポート事業;

18 年続く、卒業生による恒例の就活サポート事業(エントリーシート作成指導や模擬面接など)を対面で開催した(2月16日、東京・神田)。

◇群馬県立前橋女子高校スーパーサイエンスハイスクール(SSH)運営指導委員;

運営指導委員会(10月16日)、SSH ポスター発表会(1月20日)などに参加し、指導・助言や意見交換を行った。

◇ポシビリズム研究会主宰;

1998 年から続くポシビリズム研究会(ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする)を少人数ではあるが、久々に開催し、大学院進学希望のゼミ生を交えつつ日頃の研究成果について議論を交わした(7月29日、高経大図書館会議室)。

3 次年度以降の計画・抱負

それぞれ単独で発表してきた論文を再検討しながら、「ガバナンスの模索」という視点で世界経済論の研究とまとめたい。教育面では、充実したゼミ活動を中心に、次世代を担う若者に向けて「3つの出会い」(「人との出会い」「もの見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」)の場を今後も提供し続ける。

定年まであと 2 年。34 年目のシーズンを研究面でも教育面でも充実したものにした